

「知識を得ようと努めてみることで、それこそが、[...] どんなどきでもしなやかに生き抜いていく力を得るひとつの道程なのではなからうか。」

# 正しく知り、正しく恐れる。

東日本大震災から10年。私たちは、新型コロナウイルス感染症という新たな問題に直面しています。恐怖や不安をおおることばが影響力をもち、自粛警察による私的な取り締まりや、医療従事者への差別など、震災時と似た過ちがふたたび繰り返されています。今こそ震災の悲劇から学ばなければなりません。重要なのは、過度に恐れるのではなく、「正しく」恐れること。そのためには当然、起きている事態を正しく知る必要があります。震災直後から原発問題に真摯に向き合ってきた著者が提起するのは、正しい知識をもってリスクと向き合い、ときにはそのリスクを受け入れるという生き方。「いのちを大切に」「ほんの少しでも危ないと思われることはしない」、こういった一見当たり前のスローガンに潜む欺瞞と錯誤を、「いのちとリスクの観点から哲学的に明らかにし、混迷の世を「しなやかに生き抜く」すべを探ります。

## いのちとリスクの哲学


病災害の世界をしなやかに生き抜くために

## Philosophy of Life and Risk

Toward living resiliently in times with disease and disaster


一ノ瀬正樹

Ichinose Masaki



現在、世界は災害に見舞われている。メディアは毎日恐怖を煽る。人間が本来持つ「思いやり」「知性」「合理性」...等。見えないからこそ高まる「恐怖」が社会を席卷する時、私達が持ち合わせていた「美德」が崩れ落ちる。初めての恐怖に直面した人間はゼロリスク思考に向かう。徹底してリスクをなくそうとものが人間たち。それらを哲学的に紐解く本作。やがて人間は本来持つ「合理性」を無意識にその恐怖に合わせるようになる。「二重思考」である。放射線、コロナウィルス、災害の中、人間は恐怖によって全体主義に向かう、俯瞰の視点は失われる。(小室)

「シンガポールライター」  
小室みづ子  
Komuro Misuko



「武蔵野大学教授(哲学)」  
一ノ瀬正樹  
Ichinose Masaki

MYU

一ノ瀬 正樹  
1957年生まれ。博士(文学)。東京大学名誉教授・オックスフォード大学名誉フェロウ・武蔵野大学グローバル学部教授(哲学)。和辻哲郎文化賞、中村元賞など受賞。著書に、『死の所有』東京大学出版会『確率と曖昧性の哲学』岩波書店『放射能問題に立ち向かう哲学』筑摩選書『英米哲学入門』ちくま新書、など。

取次: トーハン、日販、楽天BN、八木書店ほか、どの取次からでもご注文いただけます(返品条件付注文扱)

▶ご注文先

**FAX: 03-4243-2748**

TEL: 03-5303-9495

http://habookstore.com  
mail: hello@habookstore.com

番線印	新刊	株式会社ミュー
ご担当:	様	冊

2021年3月中旬発売

## いのちとリスクの哲学

—病災害の世界をしなやかに生き抜くために—

—一ノ瀬正樹

¥2,700円+税 398頁 B6版・並製 ISBN 978-4-943995-27-2 C1010